

## [43]文學研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2339122>

---

出版情報：文學研究. 43, 1952-03-10. 九州文学会  
バージョン：  
権利関係：



# 文学研究者別索引

(筆者はABC順による。  
(括弧内は輯号を示す。)

千代正一郎  
独逸的なもの(三三)

福田良輔  
奈良朝時代東国方言の成立について(上)(中)(下)  
(三七・三八・四〇)  
奈良朝時代東国方言に関する諸問題  
——金井孝氏、金田一博士の批判に答えて——(四二)

## 春日政治

片仮名交り文の起源について(一)  
古訓漫談(二)  
「小学方言講義」より(四)  
高野山にて観たる古点本(二)(七)  
宇治拾遺物語の一本より(九)  
金光明最勝王經註本一本の古点について(一四)  
聖王帝統考(二)  
聖王御説本(二)  
古語彙考(三三)  
一八五〇年和訳馬太伝(三六)

片山正雄  
文学科学概説(一)

## 國松孝二

愛と憎しみ「ニーチェと古典文学」の一章(三五)  
運命への目覚(三六)  
ドイツからの脱出

——「ニーチェの個人主義の基底について」(三八)  
ニーチェの革命劇をめぐって(四〇)

## 小島吉雄

明治初期の歌論(一)  
宗祇の晩年(二)  
新古今集の選集態度と選集事業(五)  
新古今集の美的情調に就いて(八)  
運所集の古今集問題(一八)  
新古今集の御蔵風と註集問題(二五)  
新古今集の選者名の頭書に就いて(二八)  
見が古風随ひて(三三)  
池袋の細道一書(三七)  
芭蕉の「みだれ髪」を論ず(四〇)  
歌集「みだれ髪」を論ず(四〇)

## 小牧健夫

ヘルデルリンの「公子ホンプルク」の一問題(六・八)  
銀の鈴(一)  
ヘルの「公子ホンプルク」の一問題(六・八)  
菊花行(二)  
独逸浪漫主義の諸問題(三〇・三二)  
正岡子規と「三三」(三三)  
西芳寺の庭(三五)  
砂にれもまたアルカディアに(三六)



サツカパンソハ・スツタンタ(三)  
リツ・サンハ一ラ(一〇・一一・一二)  
訳梵漫語(二三)  
梵詩メーガ・ヅータ散女訳(二八・二九・三一)  
草枕をぞろごと(三三)  
梵語奈留別誌(三四・三六)

太平記の遺新羅使一行の歌（一三）  
 文芸活動の文藝的性質に類する認識の發表（一七）  
 本居宣長の成立過程を示す文芸（二三）  
 本居宣長の國語研究（二九）  
 本居宣長の國語研究（三二）  
 本居宣長の國語研究（三一）  
 本居宣長の國語研究（三三）  
 本居宣長の國語研究（三四）  
 本居宣長の國語研究（三五）  
 本居宣長の國語研究（三六）  
 本居宣長の國語研究（三七）  
 本居宣長の國語研究（三八）  
 本居宣長の國語研究（三九）  
 本居宣長の國語研究（四〇）  
 本居宣長の國語研究（四一）  
 本居宣長の國語研究（四二）  
 本居宣長の國語研究（四三）  
 本居宣長の國語研究（四四）  
 本居宣長の國語研究（四五）  
 本居宣長の國語研究（四六）  
 本居宣長の國語研究（四七）  
 本居宣長の國語研究（四八）  
 本居宣長の國語研究（四九）  
 本居宣長の國語研究（五〇）  
 本居宣長の國語研究（五一）  
 本居宣長の國語研究（五二）  
 本居宣長の國語研究（五三）  
 本居宣長の國語研究（五四）  
 本居宣長の國語研究（五五）  
 本居宣長の國語研究（五六）  
 本居宣長の國語研究（五七）  
 本居宣長の國語研究（五八）  
 本居宣長の國語研究（五九）  
 本居宣長の國語研究（六〇）  
 本居宣長の國語研究（六一）  
 本居宣長の國語研究（六二）  
 本居宣長の國語研究（六三）  
 本居宣長の國語研究（六四）  
 本居宣長の國語研究（六五）  
 本居宣長の國語研究（六六）  
 本居宣長の國語研究（六七）  
 本居宣長の國語研究（六八）  
 本居宣長の國語研究（六九）  
 本居宣長の國語研究（七〇）  
 本居宣長の國語研究（七一）  
 本居宣長の國語研究（七二）  
 本居宣長の國語研究（七三）  
 本居宣長の國語研究（七四）  
 本居宣長の國語研究（七五）  
 本居宣長の國語研究（七六）  
 本居宣長の國語研究（七七）  
 本居宣長の國語研究（七八）  
 本居宣長の國語研究（七九）  
 本居宣長の國語研究（八〇）  
 本居宣長の國語研究（八一）  
 本居宣長の國語研究（八二）  
 本居宣長の國語研究（八三）  
 本居宣長の國語研究（八四）  
 本居宣長の國語研究（八五）  
 本居宣長の國語研究（八六）  
 本居宣長の國語研究（八七）  
 本居宣長の國語研究（八八）  
 本居宣長の國語研究（八九）  
 本居宣長の國語研究（九〇）  
 本居宣長の國語研究（九一）  
 本居宣長の國語研究（九二）  
 本居宣長の國語研究（九三）  
 本居宣長の國語研究（九四）  
 本居宣長の國語研究（九五）  
 本居宣長の國語研究（九六）  
 本居宣長の國語研究（九七）  
 本居宣長の國語研究（九八）  
 本居宣長の國語研究（九九）  
 本居宣長の國語研究（一〇〇）

世界の劇性とゲーテの「ファスト」(一)  
 雅生の悲歌(四・八九)  
 數・思・格と體驗(一〇・一六・一七)  
 創・生・老・親の體験(二一・二五)  
 創・生・話の民族の原體驗(二三)  
 一・超・事・論理的構造(二五)  
 表・現・の・契機「見解」と「生む」と(二九)  
 文・史・の・志・態「フアウスト研究」に寄せて(三一)  
 創・歴・史・の・化「フアウスト研究の一齣」(三三)

「フイガロの結婚」とボーマルシエー（一）

十九世紀中葉以後に於ける仏蘭西風俗劇（一八・二五）  
日本に於けるコメディー・フランセーズ（二三）

マリヴォーの覚書 (二九)

フランスに於けるイタリア人劇団の業績（三三・三四）  
「ブリタニクス」から「五大力」へ（三三）  
手肴食非憂（三五）

作者兼伊藤（三五）  
フランシス最古の喜劇（三六）  
モリエール（三七）  
（三八）  
（三九）

マダム・ド・ロングヴィルの生涯(四〇)

杉浦正一郎「奥の細道」制作心理（四一）

高木市之助

芳放魚  
三三三  
三〇一

玉山島川仙媛放（三五）

思出十年——私本位に書きつゞるところの——（四〇）

芸術学、高橋義孝  
芸術史における没価値性の意味

トーマス・マンのフロイト論その一(四一)(承前)(四二)

田中 昇  
表現の構造（一六）  
万葉集の國家思想（一）

日本現主義と「もの」あはれ

生成の根拠としての自然（二五）

豊田 寶

英吉利漂流邦訳考（四）

芥川龍之助とエドガ・アラン・ポオ（七）  
故坪内逍聖書と訳の歴史（一二）  
日本に於ける英文法紹介及び研究の歴史（二〇）  
俳句と英語の反映としての英語史緒言の一節（二六）  
生活文化の問題と英語史緒言の概観（二九）  
言語起源の異同と国民性（三三）  
人及英語作家としてのシエイクスピアの女性観（三六）  
シエイクスピアの女性観（三六）

山内晋郷  
六朝時代の展覧（二）  
牟子問題の清算（四・五・六）  
王鳴盛氏の仏典観（二）

矢田部達郎  
古語に於ける「てには」の意義（三二）

吉町義雄  
「物類称呼」の西国方言索引（一）  
九州方言の特性（二・三・五）  
博多・津和野・加賀・現語に現れた活用一段化趨勢（一〇）  
日本方言の動詞活用動詞分布相（二二・二四・二六）  
九州方言の四段活用動詞分布相（二二・二四・二六）  
紫雲・鹿兒島方言文学四書抄（二八）  
山人・鹿兒島方言文学四書抄（二八）  
施福多・日本文庫及び日本文学研究提要（三〇・三二）  
大和・口上言葉集（三四）

上海刊行日本語文典（三五）  
九州方言推考・打消助詞活用分布相（三六）  
九州方言推考・打消助詞活用分布相（三七）  
九州方言推考・打消助詞活用分布相（三八）  
九州方言推考・打消助詞活用分布相（三九）  
九州方言推考・打消助詞活用分布相（四〇）  
九州方言推考・打消助詞活用分布相（四一）  
九州方言推考・打消助詞活用分布相（四二）

「文学研究」発行年月一覽表

|       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 第一輯   | 昭和七年三月    | 第廿二輯  | 昭和十三年三月   |
| 第二輯   | 昭和八年二月    | 第廿三輯  | 昭和十三年十月   |
| 第三輯   | 昭和八年七月    | 第廿四輯  | 昭和十四年六月   |
| 第四輯   | 昭和八年十月    | 第廿五輯  | 昭和十四年十二月  |
| 第五輯   | 昭和九年一月    | 第廿六輯  | 昭和十五年七月   |
| 第六輯   | 昭和九年五月    | 第廿七輯  | 昭和十六年三月   |
| 第七輯   | 昭和九年十月    | 第廿八輯  | 昭和十六年八月   |
| 第八輯   | 昭和九年十二月   | 第廿九輯  | 昭和十六年十一月  |
| 第九輯   | 昭和十年一月    | 第三十輯  | 昭和十七年二月   |
| 第十輯   | 昭和十年四月    | 第三十一輯 | 昭和十七年七月   |
| 第十一輯  | 昭和十年七月    | 第三十二輯 | 昭和十七年十二月  |
| 第十二輯  | 昭和十年十月    | 第三十三輯 | 昭和十八年六月   |
| 第十三輯  | 昭和十年十二月   | 第三十四輯 | 昭和十八年十一月  |
| 第十四輯  | 昭和十一年一月   | 第三十五輯 | 昭和十九年六月   |
| 第十五輯  | 昭和十一年四月   | 第三十六輯 | 昭和十九年十一月  |
| 第十六輯  | 昭和十一年七月   | 第三十七輯 | 昭和二十年六月   |
| 第十七輯  | 昭和十一年十月   | 第三十八輯 | 昭和二十年十一月  |
| 第十八輯  | 昭和十二年一月   | 第三十九輯 | 昭和二十一年六月  |
| 第十九輯  | 昭和十二年四月   | 第四十輯  | 昭和二十一年十一月 |
| 第二十輯  | 昭和十二年七月   | 第四十一輯 | 昭和二十二年六月  |
| 第二十一輯 | 昭和十二年十月   | 第四十二輯 | 昭和二十二年十一月 |
| 第二十二輯 | 昭和十二年十二月  | 第四十三輯 | 昭和二十三年六月  |
| 第二十三輯 | 昭和十三年一月   | 第四十四輯 | 昭和二十三年十一月 |
| 第二十四輯 | 昭和十三年四月   | 第四十五輯 | 昭和二十四年六月  |
| 第二十五輯 | 昭和十三年七月   | 第四十六輯 | 昭和二十四年十一月 |
| 第二十六輯 | 昭和十三年十月   | 第四十七輯 | 昭和二十五年六月  |
| 第二十七輯 | 昭和十三年十二月  | 第四十八輯 | 昭和二十五年十一月 |
| 第二十八輯 | 昭和十四年一月   | 第四十九輯 | 昭和二十六年六月  |
| 第二十九輯 | 昭和十四年四月   | 第五十輯  | 昭和二十六年十一月 |
| 第三十輯  | 昭和十四年七月   | 第五十一輯 | 昭和二十七年六月  |
| 第三十一輯 | 昭和十四年十月   | 第五十二輯 | 昭和二十七年十一月 |
| 第三十二輯 | 昭和十四年十二月  | 第五十三輯 | 昭和二十八年六月  |
| 第三十三輯 | 昭和十五年一月   | 第五十四輯 | 昭和二十八年十一月 |
| 第三十四輯 | 昭和十五年四月   | 第五十五輯 | 昭和二十九年六月  |
| 第三十五輯 | 昭和十五年七月   | 第五十六輯 | 昭和二十九年十一月 |
| 第三十六輯 | 昭和十五年十月   | 第五十七輯 | 昭和三十年六月   |
| 第三十七輯 | 昭和十五年十二月  | 第五十八輯 | 昭和三十年十一月  |
| 第三十八輯 | 昭和十六年一月   | 第五十九輯 | 昭和三十一年六月  |
| 第三十九輯 | 昭和十六年四月   | 第六十輯  | 昭和三十一年十一月 |
| 第四十輯  | 昭和十六年七月   | 第六十一輯 | 昭和三十二年六月  |
| 第四十一輯 | 昭和十六年十月   | 第六十二輯 | 昭和三十二年十一月 |
| 第四十二輯 | 昭和十六年十二月  | 第六十三輯 | 昭和三十三年六月  |
| 第四十三輯 | 昭和十七年一月   | 第六十四輯 | 昭和三十三年十一月 |
| 第四十四輯 | 昭和十七年四月   | 第六十五輯 | 昭和三十四年六月  |
| 第四十五輯 | 昭和十七年七月   | 第六十六輯 | 昭和三十四年十一月 |
| 第四十六輯 | 昭和十七年十月   | 第六十七輯 | 昭和三十五年六月  |
| 第四十七輯 | 昭和十七年十二月  | 第六十八輯 | 昭和三十五年十一月 |
| 第四十八輯 | 昭和十八年一月   | 第六十九輯 | 昭和三十六年六月  |
| 第四十九輯 | 昭和十八年四月   | 第七十輯  | 昭和三十六年十一月 |
| 第五十輯  | 昭和十八年七月   | 第七十一輯 | 昭和三十七年六月  |
| 第五十一輯 | 昭和十八年十月   | 第七十二輯 | 昭和三十七年十一月 |
| 第五十二輯 | 昭和十八年十二月  | 第七十三輯 | 昭和三十八年六月  |
| 第五十三輯 | 昭和十九年一月   | 第七十四輯 | 昭和三十八年十一月 |
| 第五十四輯 | 昭和十九年四月   | 第七十五輯 | 昭和三十九年六月  |
| 第五十五輯 | 昭和十九年七月   | 第七十六輯 | 昭和三十九年十一月 |
| 第五十六輯 | 昭和十九年十月   | 第七十七輯 | 昭和四十年六月   |
| 第五十七輯 | 昭和十九年十二月  | 第七十八輯 | 昭和四十年十一月  |
| 第五十八輯 | 昭和二十年一月   | 第七十九輯 | 昭和四十一年六月  |
| 第五十九輯 | 昭和二十年四月   | 第八十輯  | 昭和四十一年十一月 |
| 第六十輯  | 昭和二十年七月   | 第八十一輯 | 昭和四十二年六月  |
| 第六十一輯 | 昭和二十年十月   | 第八十二輯 | 昭和四十二年十一月 |
| 第六十二輯 | 昭和二十年十二月  | 第八十三輯 | 昭和四十三年六月  |
| 第六十三輯 | 昭和二十一年一月  | 第八十四輯 | 昭和四十三年十一月 |
| 第六十四輯 | 昭和二十一年四月  | 第八十五輯 | 昭和四十四年六月  |
| 第六十五輯 | 昭和二十一年七月  | 第八十六輯 | 昭和四十四年十一月 |
| 第六十六輯 | 昭和二十一年十月  | 第八十七輯 | 昭和四十五年六月  |
| 第六十七輯 | 昭和二十一年十二月 | 第八十八輯 | 昭和四十五年十一月 |
| 第六十八輯 | 昭和二十二年一月  | 第八十九輯 | 昭和四十六年六月  |
| 第六十九輯 | 昭和二十二年四月  | 第九十輯  | 昭和四十六年十一月 |
| 第七十輯  | 昭和二十二年七月  | 第九十一輯 | 昭和四十七年六月  |
| 第七十一輯 | 昭和二十二年十月  | 第九十二輯 | 昭和四十七年十一月 |
| 第七十二輯 | 昭和二十二年十二月 | 第九十三輯 | 昭和四十八年六月  |
| 第七十三輯 | 昭和二十三年一月  | 第九十四輯 | 昭和四十八年十一月 |
| 第七十四輯 | 昭和二十三年四月  | 第九十五輯 | 昭和四十九年六月  |
| 第七十五輯 | 昭和二十三年七月  | 第九十六輯 | 昭和四十九年十一月 |
| 第七十六輯 | 昭和二十三年十月  | 第九十七輯 | 昭和五十年六月   |
| 第七十七輯 | 昭和二十三年十二月 | 第九十八輯 | 昭和五十年十一月  |
| 第七十八輯 | 昭和二十四年一月  | 第九十九輯 | 昭和五十一年六月  |
| 第七十九輯 | 昭和二十四年四月  | 第一百輯  | 昭和五十一年十一月 |
| 第八十輯  | 昭和二十四年七月  |       |           |
| 第八十一輯 | 昭和二十四年十月  |       |           |
| 第八十二輯 | 昭和二十四年十二月 |       |           |
| 第八十三輯 | 昭和二十五年一月  |       |           |
| 第八十四輯 | 昭和二十五年四月  |       |           |
| 第八十五輯 | 昭和二十五年七月  |       |           |
| 第八十六輯 | 昭和二十五年十月  |       |           |
| 第八十七輯 | 昭和二十五年十二月 |       |           |
| 第八十八輯 | 昭和二十六年一月  |       |           |
| 第八十九輯 | 昭和二十六年四月  |       |           |
| 第九十輯  | 昭和二十六年七月  |       |           |
| 第九十一輯 | 昭和二十六年十月  |       |           |
| 第九十二輯 | 昭和二十六年十二月 |       |           |
| 第九十三輯 | 昭和二十七年一月  |       |           |
| 第九十四輯 | 昭和二十七年四月  |       |           |
| 第九十五輯 | 昭和二十七年七月  |       |           |
| 第九十六輯 | 昭和二十七年十月  |       |           |
| 第九十七輯 | 昭和二十七年十二月 |       |           |
| 第九十八輯 | 昭和二十八年一月  |       |           |
| 第九十九輯 | 昭和二十八年四月  |       |           |
| 第一百輯  | 昭和二十八年七月  |       |           |